

皆さん、こんにちは。校長の斉木です。
これから月一回のペースで「校長室から応援メッセージ」をお伝えします。
嫌がらず、迷惑がらず、広い心で受けとってください。では始めます。

校長室から応援メッセージ（その1）

令和5年5月12日（金）

「人に見せる姿が自分を励ます」

皆さん、こんにちは。山梨予備校での生活が一か月ほど経過しましたが、いかがお過ごしでしょうか。私は本校に勤務して三年目ですが、机に向かう生徒諸君の一生懸命に頑張る姿に、励ますのが仕事であるはずの私が逆に励まされている、そういう思いで過ごしています。今年も同じです。

別に人を励まそうと思って勉強しているわけではないですよ、という皆さんの声が聞こえてきそうです。それはそうでしょう。みんな自分の受験のために頑張っているのです。しかし何であれ、一つのことに集中している姿は、人が素直に生きる、その姿そのものです。最も自然な姿です。

頑張る自分の姿は自然に人を励ます。しかし人に見せる姿という形で実は自分の方が励まされているのでは、私はそうも思います。1978年、浪人生の私は某予備校への往復と一人暮らしの自分の部屋だけで世界は完結していました。日々机に向かうその自分の姿に自ら励まされていたのでは…。私は自分の予備校時代をそのように振り返っています。

さて、ゴールデンウィークも何のことかと通り過ぎ、5月も中旬になりました。これから気温が上昇し、暑い季節を迎えます。「やるぞ」という最初の覚悟が引っ込み、疲れが表に出てくる時期でもあります。それは今の勉強で大丈夫だろうか、という不安を感じてしまうからでしょう。

勉強の成果はどの分野が出題されたかに左右される模試の成績よりも、日頃の勉強の何気ない手応えで感じられます。「なんだか最近調子がいいぞ」というつぶやき、「何だかできちゃったみたい」という、場面や状況が違えば誤解されそうなつぶやき、そういう形でこそ実感できると思います。不安の中にある人は、ぜひその何気ない手応えをどこかに感じてほしいと思います。

学力の伸びを数字でなく、ステージが一段上がったかも、と手応えで感じる、ということです。手応えがあっても模試の成績数字は変わらないかもしれません。しかし焦る気持ちは脇に置き、大らかな気持ちで勉強と向き合ってください。無心で取り組み、ふと振り返って、ステージが上がっている、自分の力が伸びていることに初めて気づく、この感覚はこれからの人生で何度も味わってほしいと思います。皆さんの健闘を祈ります。